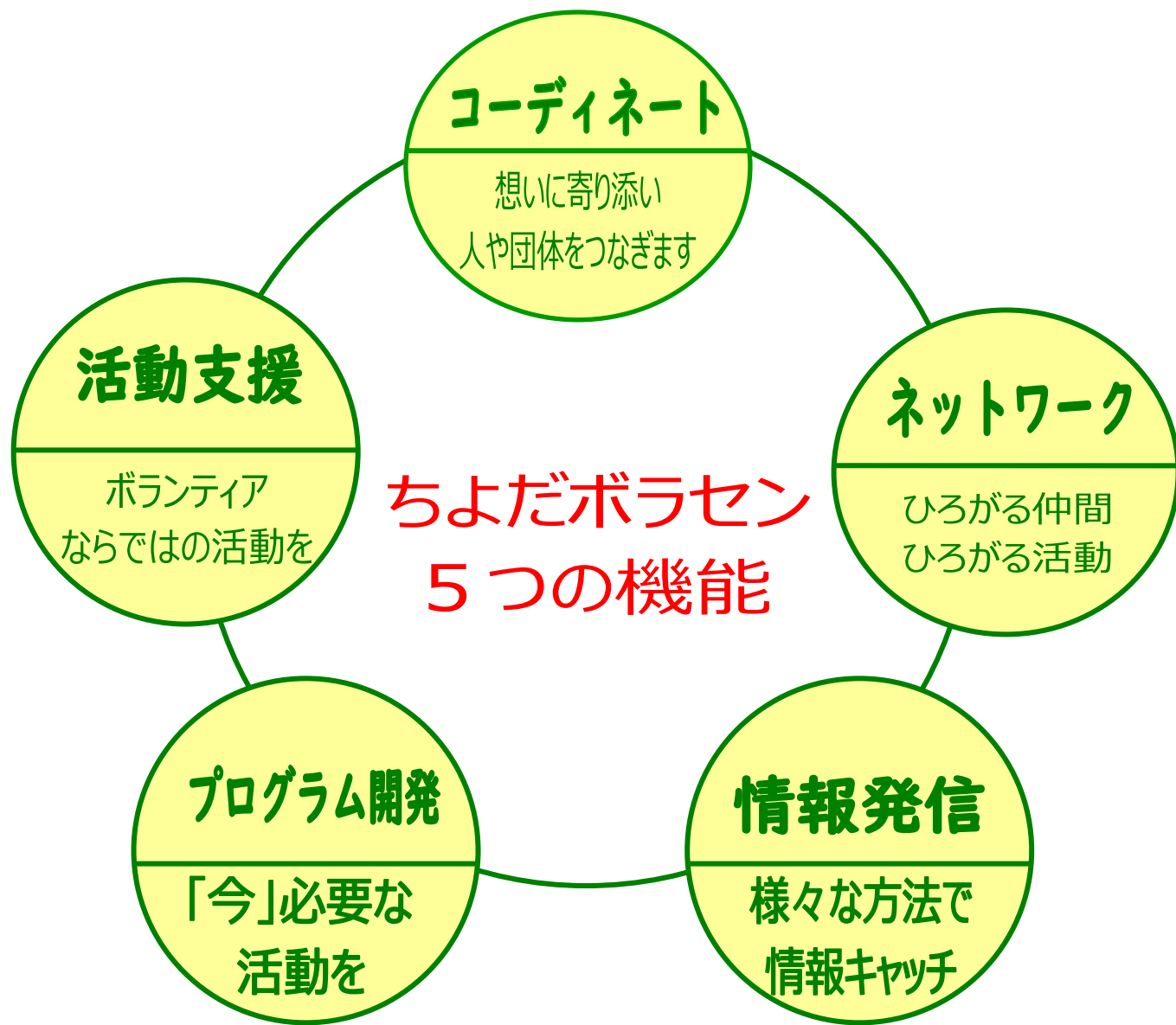


ちよだボランティアセンター・レポート



～みんなが参加し、支え合うまちづくり～

社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会
ちよだボランティアセンター

〒102-0074 千代田区九段南 1-6-10 かがやきプラザ 4階

電話 03-6265-6522 FAX 03-3265-1902

E-mail volunteer@chiyoda-cosw.jp URL <https://www.chiyoda-vc.com/>

ちよだボランティアセンターは「千代田区に住み、働き、学ぶ人がお互いに気にかけて笑顔が生まれるまち」を目指しています。



【1】ボランティアの登録・活動状況

年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
個人ボランティア登録者	120名	235名	324名
登録グループ	120団体	135団体	157団体
活動件数	7,583件	4,493件	4,146件
活動延べ人数	32,322名	31,851名	25,831名
相談件数	779件	1,057件	931件

【2】ボランティア等の相談状況

相談内容	令和5年度	令和4年度	令和3年度
ボランティア活動希望	101件	159件	109件
ボランティア募集希望	44件	61件	51件
※その他の相談	634件	837件	771件

※「その他の相談」の内訳

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
ボランティアセンター事業問合せ	89件	107件	118件
企画協力	24件	40件	53件
企業の社会貢献活動	36件	65件	36件
団体の設立・運営支援	23件	14件	23件
広報	373件	326件	281件
その他(災害支援、寄付、物的資源の活用、保険など)	89件	285件	260件
合計	634件	837件	771件

■分野別活動延べ人数

種別	内容	令和5年度	令和4年度	令和3年度
施設	高齢者施設、障がい者施設、児童施設、美術館、博物館など	3,725名	3,296名	2,477名
ボランティアグループ NPO等	国際協力、障がい者支援、高齢者支援 環境保護、子ども・家庭支援、手話など	18,861名	18,541名	20,599名
個人	使用済み切手整理、傾聴ボランティアなど	226名	494名	171名
社会福祉協議会事業	ふれあいサロン、地域行事他	9,510名	9,520名	2,584名

【傾向と課題】

- ① 個人ボランティア登録者の中に、仕組みを十分に理解されないまま登録している方が多くいたため、改めて登録の仕組みを伝え、更新手続きを行った。
- ② 令和4年度から5年度にかけて、登録ボランティア、登録グループの現状把握と整理を行ったため、共に登録数が減少した。一方で、現実に即した状況を把握できたため、今後の事業展開の基盤としていきたい。
- ③ ボランティア活動件数、活動延べ人数は増加した。これまで休止していた活動の再開や、新たな活動の創出など、各活動が活発に展開されつつある。
- ④ 相談内容では、「団体の設立・運営支援」、また団体活動の「広報」に関する相談が増加。各団体が活動を再開するにあたり、運営面や広報面でのサポートに対するニーズが高まっている。
- ⑤ 分野別に見た活動先では、高齢者、障がい者、児童など福祉施設での活動が増加。新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、福祉施設内での活動が再開しつつあることが分かった。

【3】個別ボランティアコーディネーター

「制度の狭間」にある個別の生活課題に、多様なボランティアによる関わりだからこそできる支援を調整しています。

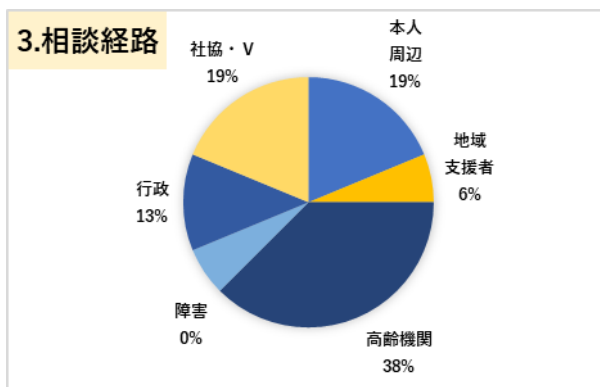
● 個別支援の対応件数

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
新規	23件	16件	6件
継続	5件	9件	3件
合計	28件	25件	9件

● 支援内容の内訳 ※重複支援含む

支援内容	件数
傾聴(話し相手)	14
外出支援	1
家族のレスパイト	0
語学・通訳支援	8
余暇活動のサポート	3
買い物サポート	1
自宅の整理・清掃・引っ越し	1
他機関へのつなぎ・情報提供等	0

● 相談経路



【傾向と課題】

- ① 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、高齢者施設から傾聴・外出支援などの相談が増えている。
- ② 前年度に引き続き外国人住民からの相談は増加傾向にあり、特に中国籍の方からの相談が増えている。(通訳支援、日本語学習支援 など)
- ③ ボランティアセンターで対応可能な個別ケースの内容を周知するためのチラシを作成したこともあり、関係機関において個別ボランティアコーディネーターの取り組みが認知されつつあり、新規相談件数が増加している。
- ④ 「傾聴」や「散歩」は目的ではない。支援対象者の「何を解消するためか」という目的から、どんな支援が必要か考えるコーディネーターが求められている。
- ⑤ 活動期限を設け(長期支援の場合は原則1年)本人の変化などアセスメントしていくことが重要。

好きなことをサポートするボランティア (余暇活動のサポート)

【地域住民への余暇活動サポート支援】

数年前に脳梗塞を患い、体が思うように動かなくなってしまった70歳の女性。昔は自分で着付けをするほど着物を着ることが好きだったが、今は自分の力だけでは着ることができなくなってしまった。着物もいくつか持っており、また着たいという気持ちはあるため着付け教室へ通うことも検討したが、そもそも通うことも難しいため自宅に来て着付けをしてくれる人を探している。(関係機関からの相談)

そこで個人ボランティア登録者の中から、着物の着付けができるボランティア2名でチームを作り、サポートをしていくことになった。

【活動を通して生まれた変化】

着物に触れる機会が増えたことで、もう一度自分で着られるようになりたいという気持ちが強くなり、この活動とは別に行っているリハビリにも力を入れるようになった。そのおかげで、今では簡単なものであれば自分だけで途中まで着ることができるようになった。

また、単に着付けを行ってもらうだけでなく会話をしながら行うため、外部の人とのコミュニケーションにもつながった。

【4】ボランティア理解促進・活動支援

■ボランティア登録説明会・学習会

個人登録ボランティア交流会

【目的】

- ①参加者が自分のできることについて考える。(自分では気付いていない潜在的なできることを深堀する)
- ②千代田区の課題を知る。
- ③地域課題に対して“私”(ボランティア自身)ができることを考え、それぞれの悩みやアイデアを共有することで、ボランティア活動への動機づけにする。
- ④「ボランティア」の本質について意見を出し合って理解を深める。

【参加者】4名

【成果】

・千代田区の現状や課題を再認識してもらうことができ、それに対して参加者が今後どのようなボランティアに参加していきたいかを考えるきっかけになった



【参加者の感想】

- ①普段個人で活動をしているため、他のボランティアの意見を聞くことができとても勉強になった。
- ②実際の事例を基にしたケーススタディをすることで、色々と想像することができ勉強になった。

メンバーが笑顔に！楽しく広げるグループ活動のコツ

【目的】

- ・講座に参加したグループが、自分たちのグループの課題を再認識する。
- ・講師の話の聞いたり、グループ交流をすることで他グループの活動を参考にし、グループ活動の今後を考える契機にする

【内容】 NPOフュージョン長池理事長、田所喬氏を講師に下記の内容を参加者が学んだ。

(1)グループ活動を次の世代に引き継ぐ際に、大事なこと

- ①「活動する仲間に丁寧に意志を聴く」同意&納得
- ②運営者は「自分の分身」を探さない
- ③「在り方」は継承「やり方」は継承しない
- ④「代表の周りに誰がいるか」が肝心
- ⑤「本気で継承しよう」と思うかどうか

(2)承継は「何が目的なのか」を明確にし、継承できなかった場合は、グループの解散や他の団体に活動を引き継いだり、他の団体と協働することも考えることも必要である。

(3)存続を考える場面に遭遇した事例紹介

(4)グループワーク

- ・参加団体の課題と強みをグループで共有し、活動存続や協働のきっかけを作る。



【成果】

- ①グループメンバーが高齢化している団体は、活動の過渡期で今後グループを存続するためにどうすればよいかを知ることができた。
- ②これからグループの立ち上げを考えている参加者は、様々な方(グループ)と知り合うきっかけになった。

【傾向と課題】

- ①資金面に関する悩みを抱えている団体や、新たな活動を検討している団体がいることも見えてきた。
- ②多角的な視点から団体活動をサポートしていく必要がある。

■福祉出張講座の実施

ボランティアや NPO 等の協力で、車いすの操作方法や手話体験、ボランティア入門講座などの出張講座を区内の学校で実施し、ボランティア・市民活動への理解促進を図る。

	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
開催数	21回	10回	12回
延べ参加者数	2,194 人	1,809 人	1,871 人
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア入門講座(5校) ・手話体験(6校) ・車いす体験講座(4校) ・アイマスク体験 ・盲導犬講座(3校) ・切手整理ボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア入門講座(4校) ・手話体験(2校) ・車いす体験講座(2校) ・アイマスク体験 ・盲導犬講座 ・切手整理ボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア入門講座(2校) ・手話体験(4校) ・アイマスク体験(2校) ・盲導犬講座 ・切手整理ボランティア ・災害ボランティアの講話



▲車いす体験講座



▲盲導犬ユーザーによる盲導犬の話

【傾向と課題】

- ① 講座への申込件数が増加傾向にある。
- ② 新規の講座依頼もあり、ボランティア理解のすそ野が広がりつつある。
- ③ 講座実施後に、新たなボランティア活動につながるケースがあった。

【5】災害に関する取組み

■災害ボランティアセンター開設・運営訓練

参加者数:社協職員 40 名/公募参加19名

「災害ボランティアセンター(以下、災害 VC)開設・運営訓練」を、地域住民や区内企業、NPO・NGO の方々など「区民参加型」訓練と実施。



災害 VC 開設のお知らせ



困りごとと活動者のマッチング

【成果】

- ① 区民参加型訓練とすることで、社協職員と区民で、災害ボランティアセンターの設置・運営のイメージを共有し、平時からできることについて話し合う機会となった。
- ② 千代田区ならではの困りごとや、準備しておくべき備品(例:マンションが多いため背負子が必要など)があることを確認できた。

■CMN(ちよだ災害モデルネットワーク)の取組み

CMNは、災害学習会に参加したメンバーで立ち上げ、学習会の企画やネットワークづくりのための情報交換に取り組み、ネットワークの中核で顔が見える関係を築いている。また、CMNが災害時に具体的にどのような支援行動をとるか、行動指針の作成を進め、令和6年3月現在33団体がネットワークに加盟。



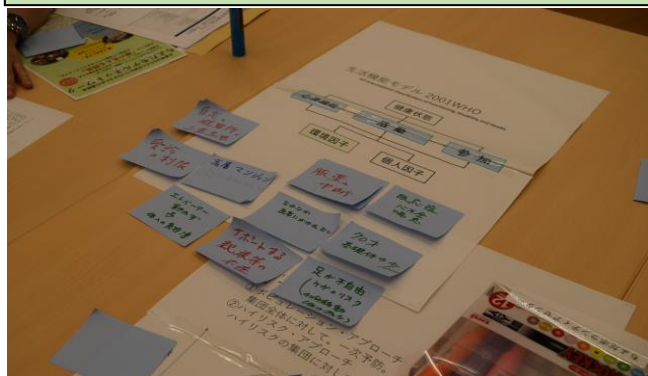
最新の行動指針は、こちらの RQ コードを読み取ってください。

■災害学習会の企画・開催

災害で命を落とさないために
災害発生後、8割の方は地域の支えで命が救われる事実
～共助の視点から～

【内容】
災害関連死の定義と要因になっている生活不活発病について学び、千代田区の地域特性を踏まえたケース検討を行うことで、平時からどのような関わりをすればよいか、グループワークを行った。

22 団体 29 名参加



CMN 行動指針の内容を知ろう

【内容】
2024年1月現在にリリースしているCMN行動指針の読み合わせを章ごとに読み合わせを行い、内容を把握した。
具体的な支援行動をするために、記載した方がよい内容を意見として出してもらった。

13 団体 15 名参加

ちよだ災害モデルネットワーク(CMN) 主催 災害学習会

CMN 行動指針の内容を知ろう

日時:3月21日(木) 18時30分~20時
会場:かがやきプラザ会議室2・3
参加無料

【成果】

- ① 幹事会の呼称を「定例会」に変更するなど、参加のハードルが下がるための試みを実践することで、参加団体が増加した。
- ② 行動指針を定例会メンバーと読み合わせたことにより、CMNで学ぶ必要がある課題が見えてきた。

【傾向と課題】

- ① 千代田区に関わる団体に CMN に参加してもらうために、ネットワークのあり方や広報の仕方を再考する必要がある。

■災害時の自助・協力の意識醸成

災害時寄り添いサポーター養成講座

【内容】

災害時の避難の際、高齢者や障がいのある方など配慮が必要な方々を支えるための基本的な知識を身につけ、普段から困っている人の気持ちに寄り添う人材の養成講座を実施。

全3回 延べ30名受講



大学生災害ボランティア養成講座

【内容】

区と災害協定を結んでいる大学の在学学生を対象に、千代田区の地域特性を踏まえた被害想定や、大学生だからこそできる支援活動を伝えた。

4大学で6回実施 延べ185名が受講



災害ボランティアフォーラム 2024

【内容】

7月に風水害に遭った、千代田区の友好姉妹都市である秋田県五城目町で災害支援活動を行った、区内在勤、在学生の活動報告と、五城目町の被害から、千代田区で災害に対してどんな取り組みができるか考える。

参加者:37名



能登半島地震被災者支援一斉募金

【内容】

令和6年元旦に発生した、能登半島地震被災者支援のため、秋葉原駅と有楽町駅周辺で2日間、一斉募金活動を行った。集まった募金は、中央共同募金会を通して、支援金・義援金として被災地に届けられた。

参加者:2日間3ヶ所延べ37名
募金総額:182,827円



【成果】

- ①区内企業の社員や民生児童委員など、多様な区民の協力を得て、千代田区でできる被災地支援活動を実践することができた。
- ②災害時に自分たちに何ができるかについて、講座やフォーラムなど様々な視点から考える機会となった。

【課題】

- ①防災・減災について自分ごととして捉えられていない人が多いため、より多くの在住・在勤・在学者に災害に関心を持ってもらえるような仕掛けづくりが重要になってくる。

【6】企業・社員のボランティア活動

■ちよだ企業ボランティア連絡会

会員企業:15社

ちよだボランティアセンターが事務局となり、社会貢献活動に関心を持つ区内企業との協働で事業の企画・開催、及び情報交換を実施。

- ① 企業同士がつながり合いどのような社会貢献活動ができるか、情報交換を行い、コロナ前同様に対面開催の協働企画を再開。
- ② 学習会を開催し、区内の福祉施設の課題に対し、何ができるかを検討。



学習会から生まれた新たな活動 ぴかいち交流会

令和4年度に、児童発達支援・放課後等デイサービス「ぴかいち」の職員を招いて、施設の支援ニーズを学ぶ学習会を開催し、連絡会として何ができるかを考えた。

【施設が抱える課題】

- ・コロナ前に比べ、施設の職員や家族以外の大人とのふれあいや、関わる機会が減ってしまった。
- ・地域の人々との交流が減った。

【施設のニーズ】

- ・地域の人々や地域企業とふれあい、つながりを作りたい。
- ・障がいの種別に関わらず、どの子供も一緒に体験/経験できるプログラムを地域の方と一緒にやりたい。



学習会の様子

新しく生まれた活動

ぴかいちえんにち～はたらくおとなといっしょにあそぼう～

普段関わることのない大人との交流や遊び体験の場を提供するため、ぴかいちの子どもたちを対象とした縁日が行われた。当日は企業ボランティアが5つのブースの準備・運営を行った他、縁日の前には自己紹介や参加企業にまつわるクイズを行い、子どもたちとの交流を楽しんだ。

参加した子どもたちは、普段なかなか体験することのできない遊びを楽しむことができ、よい夏の思い出になったとのこと。また企業ボランティアにとっては、普段関わりの少ない障がいのある子どもたちとの交流を通じて、新たな発見や今後のボランティア活動への意欲向上につながった。

双方にとって収穫の多い一日となり、来年度以降も継続して活動していくことになった。



■ちよだボランティアクラブ

企業とその社員が、地域のボランティアグループや福祉施設等とつながりを持ち、法人としての企業と個人としての社員が地域福祉の推進を図る。

企業は、任意で自社の社員が地域や施設等でボランティア活動をした時間に応じた金額を社会福祉協議会に寄付し、社会福祉協議会は、その寄付金をボランティア活動の受け入れ団体等に配分。

	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
参加企業数	81 社	75 社	70 社
マッチング企業※	19 社	18 社	17 社
受入れ団体数	55 団体	55 団体	55 団体
総活動時間	929 時間	664 時間	64 時間
寄付金額	484,000 円	232,000 円	37,000 円

※マッチング企業

社員のボランティア活動を受け入れた団体に対し、社員の活動時間に応じ金額の寄付を行う企業

企業の強みを活かした取り組み 体験&交流型支援プログラム

①企業体験

- ・株式会社パソナハートフル
×区内公立中学校特別支援

②地域施設の運営協力(施設内飾りつけの製作)

- ・株式会社セールスフォース・ジャパン
×児童発達・放課後等デイサービス「ぴかいち」



セールスフォース・ジャパンがぴかいちに対して実際に製作をした施設内の飾りつけ

【成果】

- ① 企業の活動でこれまで関わりが少なかった障がい児分野への関心が広がりつつある。
- ② 小規模でも地域の福祉課題解決に向けた活動に関心を持つ企業が増えてきた。

【傾向と課題】

- ① 小規模の地域福祉課題解決に向けた活動への関心が増えてきた一方で、大規模単発型活動へのニーズも高まってきている。
- ② コロナの緩和と共に社会貢献活動を始めようとする企業の問い合わせが増加しているが、活動内容が漠然としていて実際には活動につなぐにくい印象がある。

【7】大学生のボランティア活動

■ちよだ学生ネットの取り組み支援

- ・ちよだ学生ネットでは、第 21 回ふれあい福祉まつりに災害ブースを出展。災害時にどんな物品を非常用リュックに入れて持ち出すか、用意したカードの中から参加者に「自分に必要なもの」を考えてもらうワークを実施。当日は 250 名の来場者がワークに参加した。

〈ちよだ学生ネットとは〉

千代田区内にある大学のボランティアサークル(3 団体)によるネットワークです。社協と連携し、地域の福祉課題の解決に向けた活動に取り組んでいます。これまで、子どもたちの安心できる居場所づくりとして「大学生と宿題を進める会」などを展開してきました。

■各サークルの取り組み支援(一例)

・法政大学キャンパスエコロジー・フォーラム

第 21 回ふれあい福祉まつりに 16 名の学生が参加。ゴミ・エコステーションにてゴミの分別回収の周知を来場者に実施したほか、運営ボランティアとして、まつり全体の運営サポートを行った。

・法政大学 ACI プロジェクト

ちよだボランティアセンター隔月で発行しているボランティア情報マガジンの紙面づくりを協働。昨年度「今回の Volunteer Spot」コーナーを毎号担当し、実際に学生がボランティア活動を体験することで感じた活動の魅力などを発信した。

・国際ボランティア学生協会(IVUSA)

ちよだ学生ネットとしての活動のほか、各クラブの独自活動でも、社協が指定管理をしている高齢者活動センターと協働。三崎町クラブは高齢者向けの「スマホサロン」を、市ヶ谷クラブは多世代が交流する「E スポーツクラブ」の活動を定期開催した。



会場のゴミ分別を担当した、
法政大学キャンパスエコロジー・フォーラムのメンバー



区役所4階エレベーターホールで来場者の案内

【成果】

- ①大学生の「できること」、「得意なこと」を、千代田区の福祉課題の解決につなげている。
- ②大学生が活動に参加することで、地域の住む様々な世代が交流することを促進できた。

【傾向と課題】

- ①大学生の活動は毎年メンバーの入れ替わりがあるため、中長期的に継続する活動にしていくことが難しい。
- ②ネットワークのあり方については、各団体が無理なく継続して活動できる頻度や方法を、学生たちと一緒に毎年検討していくが必要。

■ボランティア情報誌

○通常号

ボランティア募集、イベント情報、ボランティアサークルに所属している学生による活動体験、ボランティアセンター事業の紹介などを掲載しています。
(5,500部 隔月発行)



○特別号

ボランティア活動の普及啓発や、区内で活躍するボランティア団体の活動の紹介をしている他、福祉にまつわる著名人のインタビューを掲載しています。(年1回発行)



■情報ステーション

区内の商店や学校、施設等のみなさまにご協力をいただき、ボランティア情報誌をとれるステーションを設置しています。

設置数

286箇所

■SNS を活用した情報発信

ボランティア・市民活動情報をすぐにお届けできるよう、Facebook、Twitter を開設しています。



Facebook



Twitter

■メールマガジン～千代田でつなメール～

Eメールを活用して、地域情報やボランティア・市民活動の情報を幅広く提供しています。
(毎週火曜日配信)



メールマガジンの配信登録は、こちらのQRコードからできます

■各種ハンドブックの発刊

- ① 初めてボランティアをする方へ向けた「ボランティアハンドブック」
- ② 初めて災害ボランティアをする時、依頼する時のハンドブック「知っておきたい！災害ボランティアのこと」
- ③ 福祉・医療等支援者のための、ボランティア(インフォーマル)支援を取り入れる方法



社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会
ちよだボランティアセンター

〒102-0074 千代田区九段南 1-6-10 かがやきプラザ 4階

電話 03-6265-6522 FAX 03-3265-1902

E-mail volunteer@chiyoda-cosw.jp URL <https://www.chiyoda-vc.com/>